

2021年度学力向上プラン

第（ １ ） 学年 【算数科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	数と計算	量と測定	図形	数量関係
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・最後まで集中して課題に取り組める児童もいるが、集中が続かない児童が多い。 ・具体物や半具体物を見たり操作したりしながら解決できる児童は8割程度いる。 ・発表のパターンを繰り返し練習すれば、答えの根拠となる考えを筋道立てて発表できる。 ・家庭学習の習慣は保護者の協力もあり、定着しつつある。	・2位数までの数の意味や表し方についてはほとんどの児童が理解できている。 ・たし算についてはほぼ全員が理解できている。 ・ひき算については、間違いやすい計算があり、求差の意味を正しく理解できていない児童が若干名いる。	・長さくらべやかさくらべは、意欲を持って学習できた。理解もほとんどの児童ができている。 ・〇時、〇時半については、ほとんどの児童が理解できいる。	・身の回りにある立体について、「箱の形」，「ボールの形」などと呼び、その特徴を理解できている。	・たし算やひき算が用いられる場面をよく理解し、正しく立式できる児童が8割程度いる。
育てたい具体的な姿	・全員が家庭学習に前向きに取り組む。提出率100%をめざす。 ・学習課題を意識し、意欲的に算数的活動を行ったり、考えを発表し合ったりして、課題を解決する。	・簡単な2位数のたし算、ひき算が正確に速くできる。	・長さ、面積、体積を様々な方法で、比べることができる。 ・時刻を正しく読む。	・身の回りにあるものの形の観察や構成などの活動を行い、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりする。	・文章問題を読んで、問題の場面を理解し、たし算やひき算の立式をすることができる。
実現に向けた方策	・家庭との連携をとり、家庭学習の習慣化を図る。 ・導入を工夫し、算数的活動を多く取り入れた授業を展開していく。また、教材、資料などを効果的に活用する。	・計算カードやデジタル教科書などを活用し、楽しく学習できるようにする。 ・100ます計算などを繰り返し練習し、計算力をつける。	・具体的な操作活動を通して長さ、面積、体積への関心を高める。 ・日常生活の中でも確実に時刻を読めるように指導する。	・色板や棒を並べたり、点をつないだりして、いろいろな形をつくり、図形を構成させる。 ・積み木や箱などの立体を用いて、身の回りにある具体物を作らせる。	・文章問題を解く活動やお話作りの活動を多く取り入れ、たし算やひき算の意味の理解を深めさせる。 ・具体物や、絵や図などを用いて指導する。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 2 ）学年【算数科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	数と計算	量と測定	図形	数量関係
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・学習中の発表に対する意欲は低く、挙手が少ない。偏りが否めない。 ・操作活動に興味をもって積極的に取り組める子が多い。 ・最後まで集中して課題に取り組む児童が多い。 ・答えの根拠となる考えを筋道立てて発表できる児童は少ない。 ・問題や、文章をよく読まず、内容をつかめていない児童がいる。	・計算はできるが、繰り上がりやくり下がりのある計算でミスが目立つ児童や、時間がかかる児童もいる。	・時刻の読みはほぼ定着しているが、かかる時間や、～時間前後の時刻を求める問題等に苦手意識をもつ子が多い。 ・LをdLで表すなどの、単位換算が苦手な子も多い。	・身の回りにあるものの形の観察や構成については大まかにとらえている。図形に関する用語や定義などについて現在学習中である。	・数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができる児童が多い。 ・図から、関係をおさえて、立式することが難しい。 ・文章問題では、問題の意味を正しくとらえられない児童もいる。
育てたい具体的な姿	・学習したことを分かりやすくノートにまとめたり、自分の考えを書いたりする。 ・自分の考えを進んで発言することができる。 ・早く課題が終わったら、練習問題を繰り返ししたり、友達にわかりやすく教えたりすることができる。	・繰り上がりや繰り下がりのあるたし算、ひき算の筆算を正しくすることができる。 ・かけ算九九を唱えたり、かけ算を用いて問題を解いたりすることができる。	・時刻や時間について、正確に求めることができる。 ・ものさしを使って長さを正確に測ったり、定規で正確に線を引いたりすることができる。 ・長さやかさの単位換算ができる。	・三角形，四角形，正方形，長方形，直角三角形の構成要素に着目し，図形について理解している。 ・箱の形をしたものについて知り，頂点，辺，面など立体図形の構成要素を理解している。	・加法と減法の相互関係を図や式，□などを 使って説明することができる。 ・乗法が用いられる場面を式に表したり式を読み取ったりすることができる。 ・表やグラフを用いて，比較や違いの読み取りができる。
実現に向けた方策	・学習の流れに沿ったノートの書き方について，丁寧に指導していく。 ・自分の考えを，理由をつけて発表できるようにする。 ・本時の学習内容に沿った適切な宿題を出す。 ・教え合いをする学級の雰囲気を作る。	・授業や家庭学習で計算の反復学習を継続的に行う。 ・かけ算九九の定着を図るため，練習カードで習熟を図る。	・時計，ものさし，計量マスなどの具体物を使った操作を繰り返し行い、習熟を図る。 ・定期的に、時刻や単位換算等の問題に取り組む、定着を図る。	・図形に関する，定義，用語・記号について，繰り返し確認し理解させる。 ・プリント等で図形の構成要素などの学習を行い、定着を図る。	・図を使って解決の見通しをもたせる。 ・立式について根拠を説明させる。 ・プリント等で文書問題に触れさせていき、理解を深める。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 3 ）学年【算数科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	数と計算	量と測定	図形	数量関係
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・計算練習などに対する意欲は高いが、困難な課題になると初めから取り組もうとしない児童も少なくない。 ・答えのみを発表する時は挙手が多いが、理由や自分の考えを述べるときは挙手する児童は限られている。 ・家庭学習はほとんどの子ができる習慣がついている。	・かけ算九九はほとんどが言えるが、中には十分に習熟できていない児童があり、わり算に手間取ることがある。 ・3桁以上のくり上がり・くり下がりのあるたし算・ひき算が正しくできない児童がいる。	・「時間」の学習では時計は読めるが、「何分前や何分後」を考えることが苦手な児童が少なくない。 ・「長さ」の学習では、長さの換算や正しく単位を当てはめることができない児童が少なくない。	・三角形の弁別がまだできない児童がいる。 ・立体の空間認知に弱く立体図を見て、面の形をイメージすることが難しい。	・たし算・ひき算の立式は概ねできる。 ・わり算が用いられる場面を、正しい式に表すことができない児童がいる。 ・時刻と時間について時間がうまくとらえられない児童がいる。
育てたい具体的な姿	・困難な課題に対して粘り強く最後まで取り組むことができる。 ・自分の考えを筋道を立てて分かりやすく発表することができる。 ・家庭学習を全員がしける。	・4けたまでのくり上がり・くり下がりのある計算や2けた×2けたの計算が正しくできる。 ・わり算の意味を理解し、正しく計算できる。 ・小数・分数の意味や表し方が理解できる。	・長さや重さの単位と測定の意味を理解し、およその見当をつけたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで、測定できる。 ・時間の単位について理解し、日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めることができる。	・二等辺三角形、正三角形・円・球の特徴をとらえることができる。 ・球を立体としてとらえることができる。 ・コンパスや定規を用いて正しく作図ができる。	・数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすることができる。 ・数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり□を求めたりすることができる。
実現に向けた方策	・授業の展開段階の「ひとり調べ」の時間に、課題解決に際して自分の考えをできるだけ書かせるようにし、筋道を立てて考える習慣をつけさせる。 ・家庭と連携して、宿題プリントに丁寧に取り組ませる。	・練習問題のプリントを用意し、自分のペースで進めることができる時間を確保する。 ・計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を取り入れる。	・長さや重さの計測では事前に見当をつけさせてから計測させることにより、量感を育てる。 ・時刻や時間を求める時は、実際に時計の針を動かしたり簡単な計算をしたりして求めさせる。	・実際に紙を切り抜いて図形を作ったり、敷き詰めたりして、それぞれの図形の特徴をつかませる。具体物を用いる。 ・三角形や円など、定規やコンパスを使って作図させる場面を多く設け、正しく道具を使えるようにする。	・文章題を読み取る際に、大事な言葉や数を見つけさせたり、○やテープ図で表させたり、具体物を用いた操作などと関連づけさせたりして、正しく立式できるようにする。 ・時刻と時間については、生活の中で意識して活用場面を増やしていく。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 4 ）学年 【算数科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	数と計算	量と測定	図形	数量関係
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・学習には、真面目に取り組むが、積極的に自分の考えを述べる児童は限られている。 ・課題を解くのに個人差があり、課題を自力で解けない児童がいる。 ・家庭学習は、ほぼ提出する。但し、文章問題や複雑な計算では誤答する児童がいる。	・全国平均点とほぼ同じである。（全国比103） ・数の表し方と、その扱いに関することは、全国平均をやや下回っていた。（全国比95） ・計算力はかなり高いが、数のしくみや性質に関する問題は、あまりできていなかった。	・全国平均点より、やや高い。（全国比109） ・時刻や時間・重さの単位の換算は、概ね理解できているが、秤の読み方が理解できていない。 ・道のりを求める問題は全国平均より低く、理解が不十分である。	・全国平均点より、やや高い。（全国比105） ・三角形の理解や三角定規の角の定着率が高い。 ・球の直径の計り方や円と概説する長方形の問題など図形の理解は全国平均よりもやや低く、理解が不十分である。	・全国平均点より、やや高い。（全国比108） ・言葉の式や□を用いた式の定着率はあまりよくなかった。 ・棒グラフの読み取りは理解している。 ・2次元表の問題は、やや全国平均を下回っており、正答率も低い。
育てたい具体的な姿	・全員が家庭学習に前向きに取り組む。提出率100％をめざし、さらに自主学習でも算数の学習に進んで取り組むようになる。 ・自分の考えをもち進んで発表したり、自力解決したりできる。	・わり算の筆算、かけ算の筆算の仕方を理解し、適切に用いて問題を解くことができる。 ・小数の仕組みを理解し、小数のたし算・ひき算、わり算・かけ算、分数のたし算・ひき算が確実にできる。 ・一億を超える数の仕組みや表し方を理解できる。 ・概数の意味を理解し、四捨五入によって概数を求めることができる。	・面積の概念や単位(cm^2 , m^2 , km^2)を理解し、面積を求めることや単位の換算をすることができる。 ・角の大きさの単位と測定の意味を理解し、測定することができる。	・直線の平行や垂直の関係について理解し、垂直や平行な直線をかくことができる。 ・平行四辺形、ひし形、台形の性質を理解し、その特徴から分類したり、作図したりすることができる。 ・立方体、直方体の特徴をとらえ、説明することができる。	・2つの数量関係の変化の様子を、折れ線グラフで表すことができ、変化の特徴を読み取れる。 ・四則混合の式について理解し、正しく計算することができる。 ・公式の意味を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。
実現に向けた方策	・互いに考えを述べ合う場、互いに教え合う場の設定をする。 ・みんなの発言を互いに容認し合う学級作りを行う。 ・家庭との連携をとり、家庭学習の習慣化を図る。	・アシストシートなどを活用し、解決型の問題に触れさせていく。 ・筆算においては方眼ノートを活用し、定規を使って線を引くことや位を揃えて計算するなど基本を徹底する。 ・学習タイムや授業の終末に数の仕組みや計算などの習熟を図る。	・実際の測定や操作活動を重視し、量感をつかませる。 ・単位をただ暗記するのではなく、十進位取記数法の考え方で理解させる。 ・日常生活の中での行動や経験と対応させて、具体的な場面で時間の経過をつかむことができるようにする。	・机間指導や個別指導を通して、用具の正しい操作を確認する。 ・コンパスの操作においては、長さをとる、長さを分けるといった使い方にも慣れさせる。 ・図形の特徴を覚えるだけでなく、その特徴を多面的にとらえて解く問題に慣れさせる。	・表やグラフにふれさせる機会を多くし、慣れさせる。 ・式と図をしっかりと関連させて考えさせる。 ・公式や四則の計算のきまりについては、それらを用いて考えられるような、多様な問題に取り組ませる。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 5 ）学年 【算数科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	数と計算	量と測定	図形	数量関係
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・学習には、真面目に取り組むが、積極的に自分の考えを述べる児童は限られている。 ・単発的な立式や答えに対しては、大半の児童が発表することができる。ただ、解法説明や自分の考えを説明する場面になると発表が消極的になる。 ・文章問題や複雑な計算では誤答する児童が多い。	・県学力調査の正答率は、県68.8％に対し本学年は64.8％だった。 ・少数のかけ算の仕方を説明する設問では、県平均より8.9％低く、無回答も多い。 ・全体的に問題をしっかり読み取れておらず、図を手がかりにして考えることができていない。	・体積についての求積問題は概ね理解しているが、単位の感覚が弱い児童がいる。 ・複合図形の面積、体積を求める力は個人差がある。	・県学力調査の正答率は県47.7％に対し本学年は44.1％だった。 ・平行な直線のかき方や角度を正確に測るなど、基礎的な技能が十分身につけていない児童がいる。	・県学力調査の正答率(変化と関係)は県72.7％に対し本学年は71.8％だった。 ・棒グラフと折れ線グラフから必要な情報を読み取る問題が苦手である。
育てたい具体的な姿	・進んで問題に取り組み、最後まで根気強く問題を解くことができる。 ・進んで自分の考えを発表することができる。また、解法の説明をすることができる。 ・家庭学習に真面目に取り組む、提出することができる。	・基本的な四則計算（特に除法・減法）の意味を理解し、それらの計算を用いて正しく処理できる。 ・問題の意味をしっかりと捉え、何を問われているのか理解する。	・図形の面積や体積を計算によって求めることができる。 ・測定値の平均や単位量あたりの大きさについて理解する。 ・単位換算ができる。	・基本的な図形の名称や性質を理解し、三角形や四角形を作図することができる。 ・図形の性質を活用することができる。	・題意を正しく捉え、図や絵、表などを用いて数量の関係を考察できる。
実現に向けた方策	・めあてを明確に示し、見通しをもたせて問題解決をし、まとめるという学習過程を徹底する。 ・T T 指導や個別の支援を有効に施し、児童一人一人にやればできるという自信や分かるようになったという喜びを抱かせる。 ・小集団の中で問題に取り組ませ、対話的に学ばせる。	・文章問題では大切な数字や語句に印をつけてしっかり読ませる。 ・家庭学習において、教科書の復習や計算ドリルなどを活用させながら、四則計算に関する力の向上を図る。 ・ノートの使い方についても指導し、より正確に計算できるようにする。	・文章問題のときは、数直線や関係図について指導し、活用することで考えをまとめやすくする。 ・できる限り具体物を使い、量感を身に付けさせる。 ・面積の公式をもとに、図に解決の手立てを書き込ませながら考えさせ問題解決するよう指導する。	・考えたことをノートに表現させる活動を通して、考える楽しさを味わわせる。 ・算数的活動を多く取り入れ、量感や図形感覚を育てる。 ・I C T 機器や具体物を利用して図形のイメージ化を図る。 ・面積の公式をもとに、図に解決の手立てを書き込ませながら考えさせ問題解決するよう指導する。	・問題に応じて、図や絵、表などを工夫して使うと解決しやすいことに気づかせ、積極的に活用させる。 ・グラフの読み取りを算数科だけでなく、社会科などの他教科でも指導する。 ・答えや考えを発表する前に、友だち同士で説明し合ったり、確認し合ったりする時間を作る。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目

2021年度学力向上プラン

第（ 6 ） 学年 【算数科】

	学ぶ意欲や学習の習慣について	数と計算	量と測定	図形	数量関係
児童の実態（学力調査や普段の学習から）	・「自分の考えを整理し記述して答える」問題を苦手とし、無回答の割合がやや高い。 ・算数科に対して苦手意識のある児童もいるが、全般的に学習意欲は高い。課題に対しても粘り強く取り組む児童が多い。 ・発言も積極的に行うが、自分の考えを説明するといった場面ではやや沈滞化する傾向にある。 ・家庭学習の習慣は、ほとんどの児童に身についている。	（・県平均・全国平均より高い。） - 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適応して、基準量を1としたときに比較量の求め方を記述することができる。	（・県平均・全国平均より低い。） ・三角形の求積や複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性についての理解が十分ではない。	（・県平均・全国平均より高い） ・三角形の求積や複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性についての理解が十分ではない。	（・C変化と関係については県平均・全国平均より低い。Dデータの活用は高い。） ・棒グラフから項目間の関係を読み取ることが苦手。
育てたい具体的な姿勢	・どんな課題に対しても、前向きに生き生きと取り組むことができる。 ・宿題や家庭学習に、工夫を凝らしながら、自主的に取り組むことができる。	・基本的な四則計算（特に除法・減法）を的確に処理することができる。 ・割合と比較量や基準量との関係を正しく理解し、数直線図や関係図などに表し、演算を決定することができる。	・複合図形や複数の図形を組み合わせた図形の量の保存性や加法性について理解し、求積や説明ができるようにする。	・基本的な図形の名称や性質を理解し、それらの知識を利用して、考えを記述することができる。	グラフの読み取りから活用まで題意にあわせた説明ができる。
実現に向けた方策	・前時の学習内容の復習（家庭学習）や学習道具の準備など、学習に入る前の心構えをきちんとさせる。 ・T T指導や個別の支援を有効に施し、児童一人一人にやればできるという自信や分かるようになったという喜びを抱かせる。 ・家庭学習の効用性を互いに共有させる。	・スキルタイムなどを適時設定し、継続的に指導しながら定着と向上を図る。 ・家庭学習に、教科書問題の復習や計算ドリルなどを取り入れさせながら、四則計算や割合についての計算力向上を図る。 ・関係図、数直線図など手掛かりになる図をかく習慣をつける。	・既習の考えや経験を提示して、思考の手助けとして活用させる。 ・課題に対して考えを思いついた児童には、他にも考え方がないか促す。 ・考えが思いつかない児童には、ヒントカードやヒントコーナーを工夫し、個別支援を充実させる。	・算数的活動を通して、量感や図形感覚を育てる。それ等の過程において言語活動を充実させる。 ・I C Tや具体物を利用し、図形のイメージ化を図る。 ・自分の考えをノートにまとめさせる活動を通して、相手に分かり易く伝える表現方法を身につけさせる。	・問題に応じて、図や絵、表などを積極的に使わせ、言語活動を工夫して解決することの楽しさに気づかせる。 ・発表する前に、となりどうしやグループで説明し合ったり教え合ったりする時間を確保する。
学年末の振り返り					

※ 太字は重点指導項目